

こくりにゅうだより

2018.1月号

HAPPY
NEW YEAR!



大阪府立池田高校2年 玉置 菜々花

「あけましておめでとうございます」

哲学カフェ

「うけとめる」って
なんだろう？

1/20(土)14:00~16:00

『「うけとめる」ってなんだろう?』をテーマに、佐々木大輔さん(大阪大学学生)の進行で対話を楽しむ。

要申し込み・先着10名

参加費:無料

外国人のための

日本料理教室

1/25(木)10:00~13:00

外国人を対象に、日本語で日本の家庭料理を作って交流する。

1月21日(日)までに要申し込み・先着15名

対象:外国人・外国にルーツを持つ人

参加費:1500円(保育あり)

日韓間で考える

「表現の不自由」

と民主主義

2/16(金)18:00~19:30

韓国と日本の表現活動取材し、支援している岡本有佳さんから韓国の「ろうそく集会」について話を聞き、表現の自由について考える。

要申し込み・先着50名

参加費:500円

Filipino Young at Heart's Club クリスマス会

12月10日（日）に、月1回活動しているフィリピン人中高年グループ「Filipino Young at Heart's Club」のクリスマス会を行い、約40人が参加しました。豊中だけではなく、大阪市内、遠くは和歌山からの参加者もありました。以下、コーディネーターのマリコ・ラモスさんの感想です。

「パーティにはお母さんや子どもたちが参加してくれ、とても嬉しかったです。



フィリピンでは、クリスマスは1年間で最も忙しく、最も待ち望まれている日です。ですので、ここでフィリピン人がクリスマスを祝えることには大きな意味があります。私たちにとってクリスマスはパーティとプレゼントだけではなく、家族や友人と過ごし、キリストの降誕を慶ぶ特別な日なのです。」



コラム 「少しだけ北の国から@福島 ～峠のあじさいと放射能～」

辻 明典

協会事業（哲学カフェ、プロジェクト“さんかふえ”等）に参加していた辻明典さんが、2013年度より故郷である福島県南相馬市に戻り、教員をしています。辻さんからの福島からの便りをどうぞ。

飯館村をドライブしていた、6月のある日のことでした。ふと窓から景色を見ると、あじさいが咲いていたので、ついつい車を停めて、そのたたずまいに見入ってしまいました。

これは、帰還困難区域に指定された、長泥地区へと続く峠です。この道の先は、バリケードによって隔てられています。放射線量の値がとても高いので、一般の人の立ち入りは制限されているのです。その長泥へと続く道の端に、あじさいが植えられていました。きっと飯館村のどなたかが、この道を通る人たちが、寂しい思いをするかもしれないので、せめて愛でてはくれないかと、花を育てているのでしょう。

ここで暮らすことは難しいかもしれない。でも、花の美しさは、ここに住まうことはできるだろう、と。放射能と、花の美しさが共存しているのが、この村の風景なのでしょうか。



『少年の名はジルベール』（竹宮恵子著・小学館）

スタッフおすすめ図書



最近まんがを読みますか？ むかし(1970年代)、まんがを読んでいました。少女フレンド、マーガレット、花とゆめ、少女コミック、りぼん、なかよし。

少年漫画の世界には手塚治虫や藤子不二雄で有名な伝説のアパート「ときわ荘」があります。一方、少女漫画の世界には若い漫画家が集まって協力し、語り合い、作品を生み出す場「大泉サロン」がありました。その中心にいたのが萩尾望都と竹宮恵子です。

著者は、まんが独特の「ネーム」（台詞やコマ割りを描いてストーリーと全体の流れを表現する）と制作のために、毎週毎週雑誌の締め切りと格闘します。そこにはライバル萩尾望都と一緒に住んでいて「大泉サロン」でまんがを描き出す苦悩も書かれています。

竹宮恵子が黎明期の少女漫画に“ボーイズラブを描く”というタブーをぶつけて、もがき、挑戦し続けて書いた革命的作品『風と木の詩』。この本は、『風と木の詩』作成への志しを知り、物を作り生み出す人の熱を感じることでできる自伝です。まんがを描く人の思いはすごい！

「まんが」にもう一度手が伸びます……。 （協会職員・橋本潔己）

Youは何しに国流へ？

第4回

センターで活動している人を紹介します☆

私が初めて国流にきたのは、約10年前。多文化フェスティバルに「韓国・朝鮮ことばとあそびのつどい」の子どもたちと参加した時です。

3年前、豊中市在日外国人教育推進協議会(市外教)の事務局長になってからは、国流さんとは、さらに深い深い付き合いになりました。毎月1回の韓国・朝鮮ことばとあそびのつどい(韓国・朝鮮にルーツを持つ子どもたちの居場所づくりを行っています)、毎年11月に行われる「豊能地区多言語進路相談会」、市内の小中学校・子ども園の代表者による「豊中市在日外国人教育推進担当者会議」など、国流を会場としたと

りくみや会議で訪れることが増えました。

大阪府在日外国人教育研究協議会(府外教)が昨年6月に発刊した『ちがいドキドキ多文化共生ナビ』(略して『ちドナビ』)の作成にあたっては、多言語通訳ボランティアのみなさんに、あいさつの動画等の撮影に協力していただきました。にぎやかで、とても楽しい撮影でした！

市外教や府外教の「お仕事」の場所として国流。ただそれだけではなく、最近では、たくさんの人と出会い、つながりを深め、自分を見つめ直すことができる、そういう場所だと特に感じています。



韓国・朝鮮ことばとあそびのつどい
豊中市立千成小学校 教員

花山 司さん



フォトレポート

～平和と共存のための～

おまつり地球一周クラブ～パロル作り～



12/23(土)、今回のおまつり地球一周クラブはフィリピンのクリスマス飾り「パロル」を竹ひごやカラフルなセロファンを使って作りました。出来上がった自分だけのパロルに子どもたちも大満足！！

コラム なんちゃ・カンチャ言わせてもらえば(第105回)

「交流が未来の希望をつなぐ」

皇甫康子(ふあんぼ・かんぢゃ)

札幌の朝鮮学校で毎年開催されている、「日朝友好促進交換授業会」に参加してきました。1997年から開始され、今年で22回目を迎えます。当時の朝鮮学校の校長先生が日本の学校の先生たちの授業を生徒たちに受けさせたいという願いで、交換授業会が実現したそうです。

11月25日の札幌は零下まで気温が下がり、雪が降り続いていましたが、小学校から高校までの全学年で午前中の授業が開始されました。公開授業では、チマ・チョゴリ姿の先生が一年生の朝鮮語の授業を行っていました。生徒は一人。まるで民族学級を見ているようです。手厚く授業をする様子は九九を朝鮮語で斉唱する、二年生5人のクラスにもありました。その昔、私も朝鮮語で覚えていたなど、記憶がよみがえります。

交換授業で目を引いたのは、高校生対象の「ジェンダー／セクシャリティー入門」の授業でした。「人の性別は何によって決まると思うか?」「見知らぬ人の性別を推測する手がかりは?」「性別がなかなかわかりづらい人はどんな人?」などの設問からはじまり、自分が持っているイメージが、どのような情報によって作られているのかを検証することができました。

今回、お手伝いをしたのが、家族写真について日朝で語り合うという授業です。昨年6月に発刊した本、「家族写真をめぐる私たちの歴史」を紹介したあと、少人数のグループで家族写真を見せながら自己紹介をするというワークをしました。35年前に撮られた曾祖母の還暦祝

いの家族写真や、一歳の誕生日の写真、韓国からの留学生の卒業式の家族写真など、みんな雄弁に語っていました。それを聞いている日本人の高校生や大学生は、はじめて聞くことばかりで興味津々の様子です。朝鮮学校全員の集合写真を持ってきた高校生たちは、まさに、これが自分たちの家族と胸を張って言います。

「朝鮮人だと感じる時は?日本人だと感じる時は?」という意見交流では、やはり、ミサイルの話題が出たときに怖いと感じるという意見や、差別や排除されたとき、キムチを食べ朝鮮語を話しているときなど、学校での毎日という意見が多かったです。学校では朝鮮語、帰宅すると日本語というバイリンガルな生活を送っている高校生たち。北朝鮮や韓国、日本の政治情勢や社会状況に翻弄されながらも、ぶれない民族意識を持って、すくすくと育っています。若い先生たちも、「一人はみんなのために、みんなは一人のために」という学校づくりを目指し、生き活きと楽しそうです。信頼感にあふれた朝鮮学校を目の当たりにし、これまでの私の思い込みも一蹴されました。

来年も希望をつなぐ交流をたくさんしたいですね。

「セヘポンマーニパドゥセヨ!」(あけましておめでとうございます)

2009年4月のおしらせ1号より連載していた「なんちゃ・カンチャ・言わせてもらえば」は、今月号をもって終了いたします。2018年2月号に記念特別号を掲載予定です。

登録グループの活動紹介



No.5 自主中国語講座

——講座の内容と、参加されているメンバーについて教えてください。

西谷：週に1度、中国語の学習をしています。メンバーは様々で、以前中国に住んでいた方や中国語を学生時代に勉強された方、中国に興味を持って来られた方が来られています。私も参加して10年ほど経ちますが、設立は15年から20年近く前だと思います。私が入ったあと、講師も生徒も入れ替わりがあったので、今では私が一番古くなってしまいました(笑) 生徒は全部で9名です。以前中国に夫の仕事の都合で少しだけ住んでいたの中国語を現地で勉強していました。日本に帰国したあと豊中市の広報で講座を見つけ、勉強したことを忘れないために学習を始めましたが、あっという間に10年経ってしまいました。

——10年も続けるというのは結構大変じゃないですか？

西谷：教室全体がアットホームで学習しやすい雰囲気なのは大きいですね。先生も優しくて気さくな方ですし、とても真面目に学習されている方も多いのですが、それに応えるように先生も熱心に教えてくださいます。通いやすい環境がそろっていると思います。

——講師の宏卓さんはどうやってとよなか国際交流センターを知りましたか？

宏卓：前任の講師が知り合いで、代わりに来たことがきっかけです。中国人として日本でも生活してきましたが、中国語を教える経験はなかったので始めたときはすごく不安でした。皆さんに教えるだけでなく、教えることは自分にとっても勉強になります。自分自身も、教える経験を経て変わりました。

——語学学習以外の活動も？

西谷：参加しているメンバーで中国に旅行に行ったことが二度ほどあります。1回目は10人ぐらいで北京天津に行き、2回目は上海に行きました。それぞれ最初に中国語を始めた目的は違うけれども、もっと中国語をしゃべりたいと思って来られている方も実際いらっ

とよなか国際交流センターには、市民による自主的な国際交流活動を支援するための登録グループ制度があります。実際の活動内容や国際交流への思いを伺いました。

しゃいますし。個人的には、皆さんでもし時間さえ合えば、また中国に旅行に行けたらいいなと思っています。やっぱりせっかく習った中国語を生かす場面に出会わないと、さらなる意欲も湧かないと思うので、そう思っています。

——センターで勉強する以外に中国語を使う場面はありますか？

西谷：以前子どもの学校活動で、学校交流で中国から来られたお子さんたちのサポートをしたことはあります。なかなか中国の方と知り合うきっかけがないので、思い切って現地へ旅行に行く方がハードルは低いかなとは思っていますが…。あとは以前いらした先生が中国に戻られた後、ご家族と日本に来られた時に一緒に大阪見学をしました。そういうことはあります。

——日常に暮らしている中で学んだことが使えるようになるというのは良いですね。

西谷：もっと他に世界があるということを知ることができる1つの場所として国際交流センターが存在したらいいなと思いますね。いろんな国に対して理解を深めるための機会を供給できる場にどんどんなっていけばいいなと思います。

宏卓：実際に交流することがすごく大事なかなと思います。最初日本に来たときは全然日本語がしゃべれずとても大変でしたが、現地の日本の方々と交流して、自分も勉強になりますし、自分ができることを教える形で関わられるのは、すごく自信になっています。

【活動についての問い合わせ先】

自主中国語講座

080-6157-2278(西谷)

活動日時：毎週土曜日9:00～11:00

とよなか国際交流センターおしらせ

「こくりゅうだより」第105号(2018年1月号)

発行元・問い合わせ:(公財)とよなか国際交流協会

〒560-0026 大阪府豊中市玉井町1丁目1-1エトレ豊中6F

阪急宝塚線豊中駅すぐ

開館時間:9:00～21:30(貸室受付は20:00まで・水曜休館)

TEL:06-6843-4343 FAX:06-6843-4375

E-Mail:atoms@a.zaq.jp

WEB:http://www.a-atoms.info/



SNSも随時更新中！

「とよなか国際交流センター」で検索！

